

国立天文台・天文情報センター・特別客員研究員 中桐正夫

**\* 岡山の昭和 37、38 年頃の写真（東京天文台 100 周年記念誌資料 1-21）**

東京天文台 100 周年記念誌資料の整理をやっている。今回はアーカイブ室新聞第 346 号 (2010 年 6 月 9 日) の東京天文台 100 周年記念誌作成時の資料—その 1—の

21) 写真袋：36 枚入っている、74 インチ関係：19 枚、36 吋インチ関係 4 枚、航空写真 7 枚、水島の明かり：4 枚、本館その他：3 枚（昭和 38 年 3 月 22 日の日付）と書かれた写真 36 枚である。

同じ写真が複数枚入っているものが多い。



写真 1

写真 1 は、岡山天体物理観測所の航空写真である。同じものが 6 枚ある。この写真は観測所上空北東から撮影したもので、74 吋望遠鏡ドーム北東部に太く写っている自衛隊が開いた道路があるが、この道路は観測所にとっては不要のものであった。

写真 2、3 は、観測所の光害問題を訴える原稿のために撮ったもので、印刷サンプルが同封されていた。写真 2 は、観測所の東にある遥照山から水島コンビナートの明かりを撮ったもので、明るい光の線は国道 2 号線である。写真 3 は観測所から同方向を撮ったものである。岡山天体物理観測所は、日本で観測条件が最も良い場所ということで選定されたのであるが、観測所が完成するころには、新産業都市計画が日本の各地で進められ、観測所の東 10Km ほどの水島灘は干拓、埋め立てられ新産業都市の優等生になったのである。



写真 2



写真 3

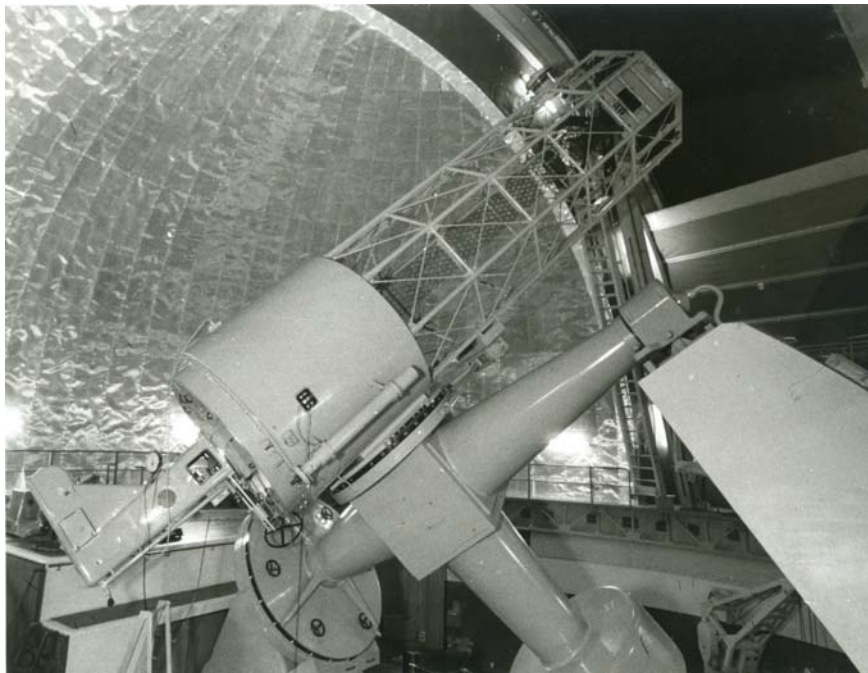


写真 4

写真 4 は、74 吋（188 cm）反射望遠鏡の見慣れた写真であるが、よく見るとニュートン焦点カメラが通常ついている場所と違っている。通常、ニュートン焦点カメラは望遠鏡を局軸の西側で南に倒したとき鏡筒の中を歩行のために猫板と呼ぶ歩行板側についているのだが、この写真では 90 度違った鏡筒を南に倒したとき、鏡筒の西側についている。

写真 5 が 2 枚、写真 6 が 8 枚ある。この 2 枚は同じネガから一方が裏焼きをしたものと思われる。通常作業は望遠鏡が極軸の西側で行われるから写真 6 が通常のポジションである。この写真では望遠鏡の東西はカウンターウェイトの下に支柱が建てられ固定され、西半分の観測床が上げられ、その床で操作している様子である。写真 5 の状態では東床が上げられていることになるが、望遠鏡極軸の西側にはカウンターウェイトの支柱を設置する機構はないし、望遠鏡の南北を固定するロープを張る金具もないことから、この 2 枚の写真は裏焼きであることが分かる。



写真 5



写真 6



写真 7



写真 8

写真 7 は、コントロールデスクで望遠鏡を操作している様子である。当時のコントロールデスクにはこのような目盛盤がついていて望遠鏡指向の駆動中はボタンを押し続けた。写真 8 は、カセグレン焦点の分光器で観測している様子を見せている大沢先生の姿である。

写真 9 は、望遠鏡をクーデ室屋上に倒したところで、望遠鏡の筒先から主鏡方向を撮ったものである。鏡筒の中央にスパイダーで吊られた副鏡が見え、その奥に黒く丸に見えるのがミラーカバーの閉まった主鏡部である。74 吋望遠鏡の鏡筒はこのように 8 角形をしている。手前下の黒い板の中に見える丸い蓋がニュートン焦点カメラ部の蓋である。通常は

この位置にニュートン焦点カメラはついている。

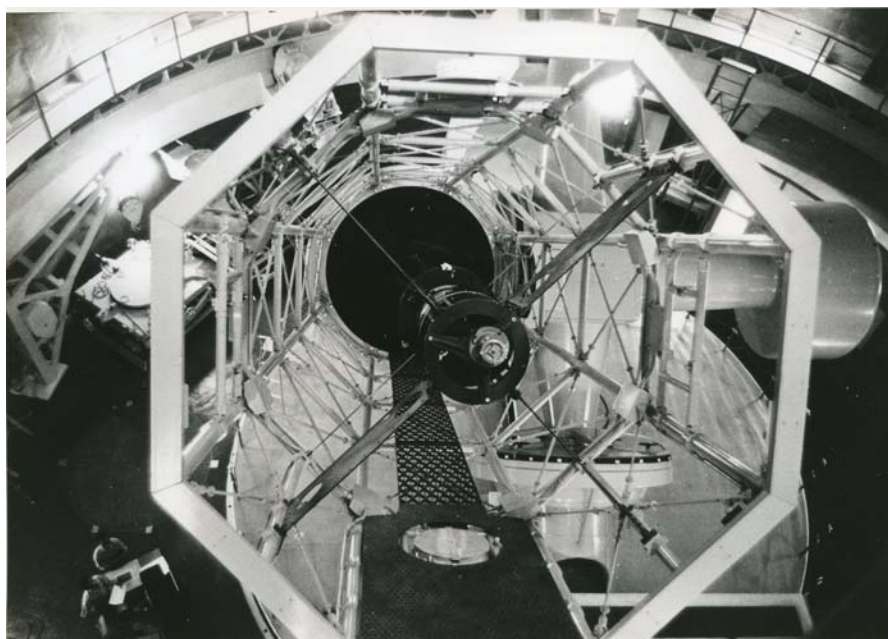


写真 9

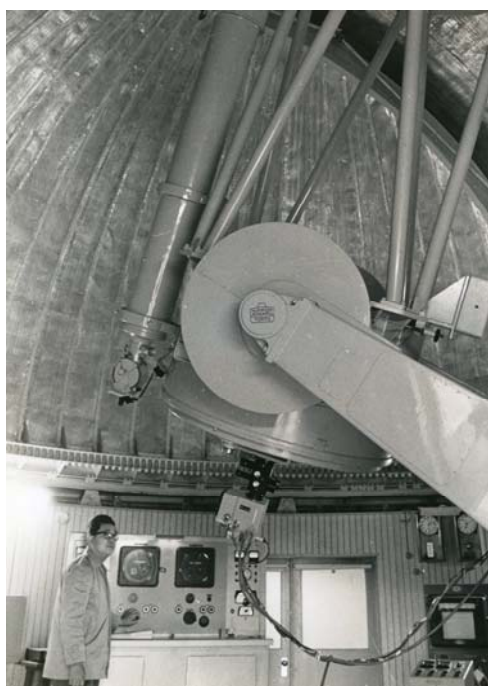


写真 10



写真 11

写真 10 は、36 吋 (91 cm) 望遠鏡を操作している様子、写真 11 は光電観測装置を操作している様子を見せている石田五郎氏である。この写真でもわかるように当時の望遠鏡のコントロールデスクは目盛盤によるアナログ表示であった。

写真 12 は、74 吋 (188 cm) 望遠鏡ドーム、裏面には昭和 37 年 9 月 24 日とある。ドーム

に向かう道路は舗装されていない。舗装されたのは1962年に岡山国体があり、天皇が来ることになり舗装されたのである。その前に高松宮が来た際には、道路面の補修がなされただけであった。写真13は、1961年に完成した本館である。裏面に昭和38年3月22日日付がある。この本館は100周年記念誌には1961年3月完成とあるが、筆者が3月に観測所に入った時には工事中であった。完成したのは5月だったように記憶している。昔は3月91日が存在した。



写真12



写真13



写真14



写真15

写真14は、本館暖房用のボイラーの灯油タンクである。写真15は、移設されたパイプハウスであり、この広場で野球の練習をして鴨方町の大会、矢掛町の大会に出かけ、いい成績を上げていたのであった。

これらアーカイブ新聞の記事にお気づきのことがあれば、編集者中桐にご連絡いただければ幸いです。中桐のメールアドレスは、[arcnaoj@pub.mtk.nao.ac.jp](mailto:arcnaoj@pub.mtk.nao.ac.jp)